

経済動向調査レポート

令和4年 第3四半期

(調査対象：令和4年7月～9月)

福崎町商工会

令和4年12月

【目次】

I. 経済動向のポイント	2
II. 兵庫県の経済・雇用情勢	3
1. 概況（全体の状況）	3
2. 県内の主要業種の概況	7
3. 地域の概況	9
III. 景況調査	14
1. 景況調査について	14
2. 概況（全業種）	15
3. 業種ごとの集計	17
①製造業（有効調査数：190件）	17
②卸売業（有効調査数：48件）	18
③小売業（有効調査数：68件）	19
④サービス業（有効調査数：78件）	20
⑤建設業（有効調査数：104件）	21
⑥不動産業（有効調査数：30件）	22

○本レポート作成の目的

地域の経済・消費動向の現状を把握し、その情報を提供することで小規模事業者が経営方針を明確にし、経営分析および事業計画の策定に有効活用できるようにし、小規模事業者の売上や利益の増進に繋がるなど経営基盤の強化につなげることを目的とします。

○本レポートの作成方法

福崎町商工会の会員事業所に対して「調査票」の記入を依頼、回収したデータを基に他の調査や情報とも比較してレポートを作成します。

I. 経済動向のポイント

【1】 兵庫県の経済・雇用情勢

① 兵庫県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

個人消費は緩やかに持ち直し、輸出と設備投資も増加傾向にある。有効求人倍率も前月を上回っており、倒産件数も前年を下回った。但し、景況等の先行きは、悪化見込みである。

② 県内の主要業種においては、総じて景況感が悪い。

食料品製造業、化学工業、電子部品・デバイス電子回路製造業、無店舗小売業、人材派遣業の景況感は悪い。好調な業種は、各種商品小売業等に限定されている。

③ 各県民局・県民センターの殆どの業種で、減収や減益傾向にある。

中播磨県民センターでは、「宿泊業」「印刷業」の2業種について分析しており、稼働率・売上高・利益共に大幅に増加している。

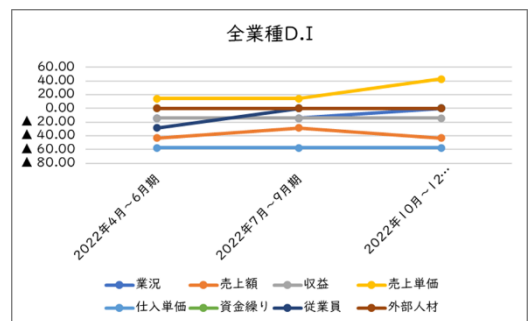
【2】 景況調査

① D.I（ディフュージョン・インデックス）による分析。

D.Iとは景況の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示しており、地域別・業種別の分析指標としている。

② 福崎町の2022年7月～9月期の景況感は、横ばいの依然厳しい状況である。

当期の業況D.Iは▲14.29ポイントで、前期から横ばい状態が続いている。また、売上額と従業員に関するD.Iが上昇したが、マイナスおよび0ポイントで依然マイナスの厳しい状況である。2022年10～12月期も上昇傾向にあるが、依然厳しい状況である。売上単価に関するD.Iが上昇、売上額は減少し、その他はほぼ横ばいの停滞予想である。



③ 姫路地域の製造業・小売業・建設業・不動産業の業況D.Iは改善している。

但陽信用金庫の取引先全地域の6業種（製造業・卸売業・小売業・サービス業・建設業・不動産業）の調査では、2022年7月～9月期の姫路地域における業況D.I実績では、製造業・小売業・建設業・不動産業は改善し、その他の業種（卸売業・サービス業）は横ばいや低下している。また、10月～12月期の姫路地域ではサービス業を除く他の業種で横ばいや低下の予想となった。

【3】 中小企業診断士からのコメント

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けは、今春にも5類相当に変更される見通しとなり、令和5年は通常の生活を取り戻す為の1年となる。依然としてとして、物価高と電気代や原材料価格の上昇が見られるが、国の推奨する「賃金の引上げ」に向けて不断的な努力を継続することで、優秀な人材の確保・育成に取り組んで頂きたい。

（令和5年1月25日 中小企業診断士 荒木慎吾氏）

II 兵庫県の経済・雇用情勢（「兵庫県の経済・雇用情勢」（令和4年12月16日）から引用）

1. 概況（全体の状況）

本県の経済・雇用情勢は、持ち直している。
 景況等…企業の業況判断は、足もとは横ばいだが、先行きは悪化すると見込んでいる。
 需 要…個人消費は、緩やかに持ち直している。
 輸 出は、増加している。設備投資は、増加計画にある。
 生 産…生産は、持ち直しの動きとなっている。
 雇 用…有効求人倍率は、前月を上回った。雇用者所得は、弱めの動きとなっている。
 金 融…倒産件数は、前年を下回った。

主要指標の推移

①景況

現状（良い-悪い）構成比（%ポイント）

区 分	R4.3月	R4.6月	R4.9月	R4.12月	R5.3月(予測)
全産業	▲1	▲3	3	2	▲3
大企業	15	6	8	10	4
中堅企業	▲2	▲1	10	3	6
中小企業	▲8	▲8	▲2	▲3	▲13
うち製造業	1	▲5	▲1	▲3	▲5
うち非製造業	▲4	0	10	7	▲3

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

②需要

項 目	R2年度	R3年度	R4.6月	R4.7月	R4.8月	R4.9月	R4.10月
商業販売額：億円	17,960	18,016	1,505	1,624	1,550	1,479	1,529
(前年度比増減率%)			(+2.2)	(+1.2)	(+2.1)	(+1.9)	(+3.0)
(前々年度比増減率%)	(+1.1)	(+0.3)	(▲2.7)	(+2.4)	(▲4.7)	(+1.7)	(+6.1)
乗用車販売台数：台	152,809	141,627	10,357	11,154	9,361	13,009	11,632
(前年度比増減率%)			(▲15.0)	(▲8.2)	(▲6.3)	(+18.6)	(+21.6)
(前々年度比増減率%)	(▲8.7)	(▲7.3)	(▲1.9)	(▲13.2)	(▲7.9)	(▲15.4)	(+0.0)
新設住宅着工数：戸	30,551	29,844	2,587	2,509	2,797	2,265	3,274
(前年度比増減率%)	(▲3.2)	(▲2.3)	(▲0.4)	(+3.5)	(+5.9)	(▲11.8)	(+21.3)
神戸港輸出額：億円	49,756	61,520	6,402	6,014	6,028	6,245	6,688
(前年度比増減率%)	(▲8.4)	(+23.6)	(+20.5)	(+22.2)	(+28.1)	(+24.7)	(+23.7)

（出所）商業動態統計（経済産業省）、新車登録速報（日本自動車販売協会連合会兵庫県支部）、軽自動車新車届出状況（兵庫県軽自動車協会）、住宅着工統計（国土交通省）、神戸港貿易概況（神戸税関）（商業動態統計調査の前年度比増減率は全店ベース）

項 目	30年度	R1年度	R2年度	R3年度(実績)	R4年度(計画)
設備投資額（前年度比増減率：%）	+0.8	▲1.2	2.4	▲13.4	25.4
(H27年度比：H27=100)	(115.2)	(113.9)	(116.6)	(101.0)	(126.6)

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

③生産

項 目	R2 年度	R3 年度	R4.5 月	R4.6 月	R4.7 月	R4.8 月	R4.9 月
鉱工業生産指数：H27=100 (前月比増減率%)	93.1 (▲10.3)	93.9 (+0.9)	93.1 (▲5.9)	96.8 (+4.0)	96.1 (▲0.7)	97.3 (+1.2)	98.3 (+1.0)

(月次は季節調整値、年度は原指数。年度増減率は前年度比較) (出所) 兵庫県鉱工業指数(県統計課)

④雇用

項 目	R2 年度	R3 年度	R4.6 月	R4.7 月	R4.8 月	R4.9 月	R4.10 月
有効求人倍率(季節調整値)：倍	0.97	0.94	1.02	1.02	1.05	1.04	1.07
新規求人数(原数値)：人 (前年度比増減率%)	26,812 (▲20.0)	28,235 (+5.3)	30,896 (+9.1)	30,377 (+10.4)	28,326 (+10.1)	30,042 (+2.3)	32,540 (+6.3)
雇用者所得計：円 (前年度比増減率%)	5,418 (▲4.7)	5,340 (▲1.4)	7,623 (▲1.9)	6,276 (+4.1)	4,630 (+3.2)	4,683 (+2.8)	= (=)

(出所) 一般職業紹介状況(厚生労働省兵庫労働局)、毎月勤労統計調査地方調査(県統計課)

⑤金融

項 目	R2 年度	R3 年度	R4.7 月	R4.8 月	R4.9 月	R4.10 月	R4.11 月
企業倒産件数：件 (前年度比増減率%)	396 (▲15.9)	329 (▲16.9)	31 (▲3.1)	23 (▲14.8)	30 (▲23.1)	33 (+43.5)	29 (▲3.3)
企業倒産負債総額：億円 (前年度比増減率%)	590 (+18.5)	294 (▲50.1)	14 (▲72.2)	38 (▲22.0)	51 (+97.2)	24 (+7.4)	84 (+304.8)

(出所) 兵庫県企業倒産状況(東京商工サーキ神戸支店)

(参考1)全国景気の現状についての内閣府のコメント

景気は、緩やかに持ち直している。

- ・個人消費は、緩やかに持ち直している。
- ・設備投資は、持ち直している。
- ・輸出は、おおむね横ばいとなっている。
- ・生産は、持ち直しの動きがみられる。
- ・企業収益は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば改善している。企業の業況判断は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・雇用情勢は、持ち直している。
- ・消費者物価は、上昇している。

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

(令和4年11月24日 内閣府「月例経済報告」)

(参考2)県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント

管内の景気は、持ち直している。

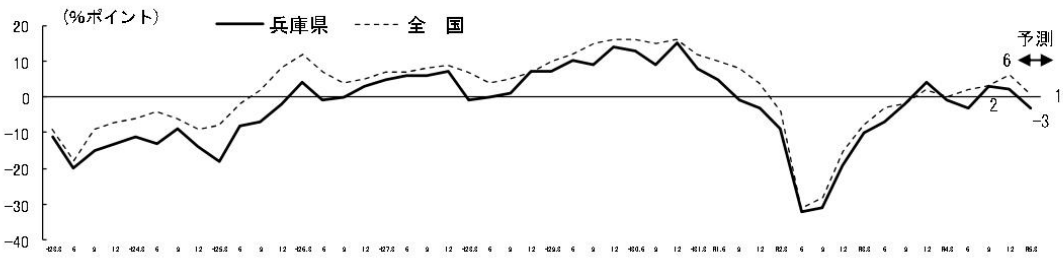
個人消費は、緩やかに持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増加している。

こうした中、生産は、緩やかに増加している。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回って推移している。

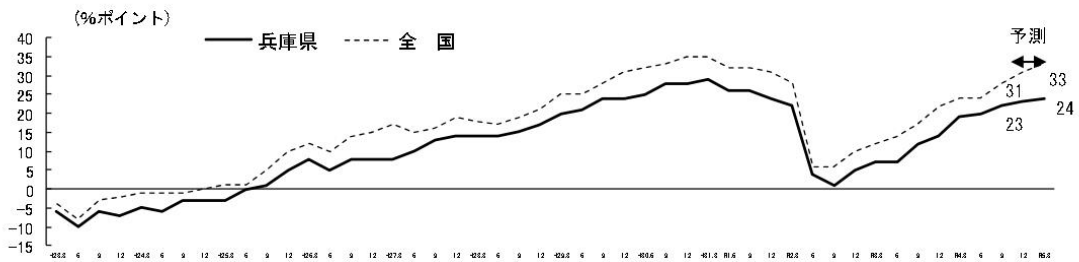
(令和4年11月15日 日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」)

日本銀行神戸支店県内企業短期経済観測調査結果の推移

業況判断DI (良い-悪いの推移)



雇用人員判断DI (不足-過剰の推移)



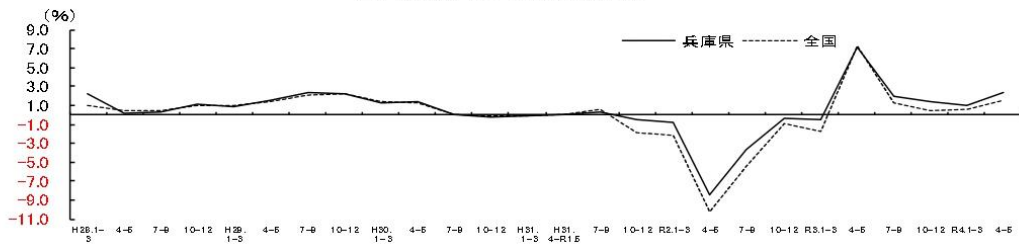
出所：令和4年12月全国・県内企業短期経済観測調査(日本銀行、同神戸支店)

GDP

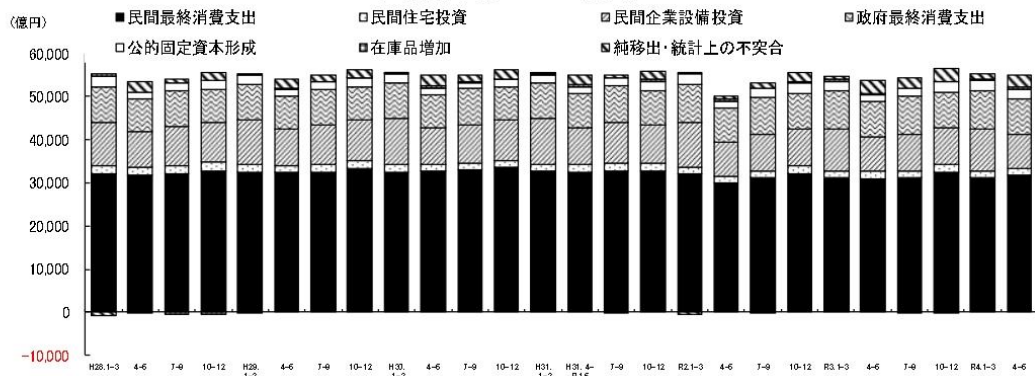


実質GDP (R4. 4~6期)は、純移出等がマイナスに転じ、民間住宅投資が対前年同期比で引き続きマイナスで推移したものの、民間企業設備投資がプラスに転じ、民間最終消費支出、政府最終消費支出、公的固定資本形成が引き続きプラスで推移し、対前年同期比は2.3%とプラスとなった。

四半期別GDP(実質)増減率



四半期別兵庫県GDP(実質)



出所：四半期別GDP速報(内閣府)、四半期別県内GDP速報(県統計課)

兵庫県・四半期別GDP(実質)(億円、増減率%)

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
GDP(実質)	221,035	221,598	221,169	213,978	219,994
前年度比	1.8	0.3	▲0.2	▲3.3	2.8

	H2.4-6	R2.7-9	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6
GDP(実質)	50,293	53,134	55,710	54,842	53,905	54,199	56,487	55,403	55,118
前年度比	▲8.5	▲3.6	▲0.4	▲0.5	7.2	2.0	1.4	1.0	2.3

兵庫県・四半期別GDP(名目)(億円、増減率%)

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
GDP(名目)	221,047	221,614	221,952	216,788	217,746
前年度比	1.7	0.3	0.2	▲2.3	0.4

	R2.4-6	R2.7-9	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	R3.7-9	R3.10-12	R4.1-3	R4.4-6
GDP(名目)	51,670	53,635	56,738	54,746	54,196	53,472	55,987	54,091	53,958
前年度比	▲6.6	▲2.3	0.1	▲0.7	4.9	▲0.3	▲1.3	▲1.2	▲0.4

注1) 今後公表される年度確報値とのあいだに若干の差異が生じる場合がある。

また、推計精度をより高めるため、各計数は過去にさかのぼって変更されることがある。

前年度比は原数値の増減を示す。

注2) 数値は、平成27年基準値となっている。

注3) 令和元年度までの年度数値は「県民経済計算」(県統計課) 令和2、3年度の年度数値は「四半期別GDP」(県統計課)

2. 県内の主要業種の概況

業種	概況
電気機械器具 小売業	<p>ここ最近では値上げ等の影響により消費マインドが低下しており、景況感はやや良くない。新型コロナや円安の影響で、売上高・利益共に先行きが見通しにくい状況である。</p> <p>上半期は前年並みの売上高で推移した。品種別に見ると、携帯電話、エアコンの売上が好調であった。電気代の高騰により、省エネ製品がよく売れている。</p> <p>EC販売は一時期と比較すると落ち着いているものの、利用者は増加しており、引き続き好調である。</p>
各種商 小売業	<p>7-9月は売場の新規オープンの影響もあり、売上が増加した。10-12月期も引き続き売上は増加する見込みである。</p> <p>前年は緊急事態宣言やまん延防止等の発令により、食品売場の客数を抑制していたが、今年は新型コロナの影響が少なく、客数が増加した。自家需要や手土産需要等も好調であった。ラグジュアリー売場や</p>

	<p>化粧品売場も前年を上回った。</p> <p>原材料価格の高騰により、食品等値上げはあるものの、売上に大きな影響はない。</p> <p>人気催事の売上、集客状況は前年を上回っている。</p>
--	---

令和4年10月 兵庫県産業労働部調査

業種	概況
食料品業	<p>円安の影響に加え、物価高も止まらず景況感は悪い。3ヶ月後も状況は変わらないだろう。前期（7-9月期）と比較すると売上は増加しているが、利益は半分程度まで減少している。価格転嫁も実施しているが、値上げ・円安に追いついていない。</p> <p>新型コロナの状況が良くなっていることもあり、外食店舗の客数は増加している。夜の宴会も戻りつつある。</p> <p>雇用面について、本社人員は適正である一方で、工場等は人員が不足しており、人員の募集を行っても応募が少ない状況である。</p>
化学工業	<p>足もとの景況感はさほど良くなく、3ヶ月後も状況は今と変わらないだろう。円安により売上が増加しているものの、エネルギー・原材料価格の高騰によるマイナスの影響が大きく、利益は減少している。</p> <p>原材料価格の高騰により、一部価格転嫁を実施している。</p> <p>7～8月は新型コロナが流行した影響で、一時的に人手不足となり生産に苦労したが、人員を調整することで対応した。</p>
電子部品・デバイス電子回路製造業	<p>半年前くらいから車載向けの受注が減っており生産調整をしているため足もとの景況感、見通しともにさほど良くない。今期（10-12月）の売上は前期（7-9月）比で3%程度、前年同期費でも5%程度減少見込み。利益も減少見込み。</p> <p>原材料の樹脂を海外から輸入しており2021年4月頃から価格が高騰し10～30%程度上昇している。製品を国内で販売しているため円安により売上・利益が減少している。</p> <p>製造部門で人員が不足しており、派遣社員を受け入れることで保っている。</p>
無店舗小売業	<p>原材料価格が上がっているので秋冬物から徐々に値上げをしつつある。春に上海のロックダウンの影響により衣料品の一部で納期遅れが発生。注文キャンセルなどで売上にマイナス影響が生じていたが、他の小都市でもロックダウンが続いていたため、7-9月期の売上は伸びなかった。</p> <p>今期（10-12月）は10月が暖かく秋冬衣料の動きが遅かったが、徐々に売上が上がってきており今後の見通しは良い。メタバースやフィンテック、新事業開発を検討する人材がやや不足している。</p>
人材派遣	<p>景気が良くなれば派遣依頼は増えるものの、求職者の獲得が難しくなり、現状は求職者の獲得が難しい状況となっている。派遣社員が増えなければ受注が増やせないため景況感はあまり良くない。</p> <p>webデザイナーが不足しているが、エンジニアの採用は困難なため、システム化で減らした営業職の人材で補っている。コロナ禍以降、営業はオンライン化が進んでいる。</p>

電 気 機 械 器 具 製 造 業	<p>新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響もあり、引き続き景況感が良いとはいえないものの、回復の兆しもあるため悪くもない。前年同期比（10-12月）では、売上は増加しているものの、物価高、原材料価格の高騰の影響もあり、利益は変化がない見込み。また昨年と比較すると需要は回復してきている。</p> <p>海外でも需要は回復傾向で、売上に占める海外シェアが高いため、為替の影響はプラスに働いている。</p> <p>コアタイムがないフレックス勤務やモバイルワークなど、フレキシブルな勤務制度が社内で定着したこともあり、従業員の出社に影響なく事業が継続できる状況になっている。</p>
----------------------	--

令和4年11月 兵庫県産業労働部調査

3. 地域の概況

地 域	業 種	概 況
神 戸	道 路 旅 客 運 送 業	<p>以前から過当競争だったところに新型コロナウイルス感染症の影響が重なり、大幅な客数減が続いている。人間的・効率的に高コストである従来の営業スタイルを続けている事業者の中には、雇用調整助成金でつないでいるところが何社もある。</p> <p>売上高は減少傾向にあるが、福祉施設や学校等の送迎業務など、固定客向け事業が安定しているため、コストカットにより利益が出ている状況。</p> <p>これまでから他企業・団体と協働で社会貢献事業に取り組んでいるが、その中で新たな運送ニーズを掘り起こし、将来の経営の柱の一つとしていきたい。</p>
	ゴ ム 製 品 製 造 業	<p>6, 7月は秋冬物の受注が順調だったが、今後の追加注文の有無により先行きは不透明である。雇用調整助成金の延長がなければ廃業せざるを得ない事業者も組合内に潜在しており、業界を取り巻く状況は依然厳しい。</p> <p>定年退職者の補充ができておらず、求人募集もかけているが、応募はほぼない。勤務日数の多さにも一因があると考え、人材確保に向け、社労士も交えて勤務条件改定の検討を進めている。</p>
阪 神 南	電 子 部 品 ・ デ バ イ ス ・ 電 子 回 路 製 造 業	<p>業況は概ね横ばいで売上高は昨年並となる見込みだが、部材高騰などの影響で費用負担が増えており、減益の見込みである。原材料価格は、半導体、樹脂、レアメタルを中心に高騰を続けており、価格転嫁の交渉も引き続き行っている。</p> <p>産業民生分野の市場はさらに成長しており、コンサルティング分野は一定の需要が見込まれる。通信分野市場は微減であるが、電力分野市場は数年後に大きな</p>

阪神南 (続き)		更新需要が予測されるため期待を寄せている。
	そ の 他 の 連 業 生 活 関 業 サ ー ビ ス	<p>全国旅行支援の開始や入国制限の撤廃、渡航制限の緩和により旅行機運が高まっており、昨年より回復傾向にある。</p> <p>国内の教育旅行は全面回復に近いが、企業旅行は回復が遅く、個人旅行も全国旅行 支援の制度設計が複雑かつ直前発表であるため、全面回復には至らない。</p> <p>急激な円安、旅行代金・燃油サーチャージ料の値上げに加え、ロシアの軍事侵攻の影響でヨーロッパ線の飛行時間延長など安心・安全の観点からも海外旅行の回復は遅れている。</p>
阪神北	小 売 業	<p>食品以外（衣料、旅行レジャー商品、化粧品等）の売上が増加しており、外出拡大、全国旅行支援割等の時流もあり、食品の値上げによる売上減少を補うと見込んでいる。第3四半期(10月～12月)の売上は、第2四半期(7月～9月)と同程度になるだろう。</p> <p>利益は食品以外の売上増加により、食品のマイナス及び一般管理費(人件費、光熱費等)の増加分のマイナスを補い増加を見込んでいる。</p>
	電子部品・デバイス・ 電子回路製造業	<p>為替や原材料高騰等の影響もほとんどなく、昨年度と比べると回復して景況感は良くなった。ただし、半導体を使用した部品を製品化しているため、半導体不足などによる部品の調達遅延が続くようなことがあれば業績面で影響がでる不安もある。設備投資が増加する傾向にあり、受託事業面での売上増に期待している。</p>
東播磨	各 種 商 品 業 小 売 業	<p>光熱費をはじめとするコスト高騰の影響で収益が低下しており、今後の見通しも好材料がなく不透明であるため、今月の景況感はさほど良くない。原材料価格の価格転嫁は一部を除いて交渉中である。求人募集を行っているものの、退職による欠員が充足しておらず、多少のマイナス影響が出ている。</p>
	電 気 機 械 器 業 製 造 業	<p>受注残があり今月の景況感が良い一方で、部品の納期が遅れることによる取引先への納品延期、それに伴った売上先送りなどの影響が出ており、今後の見通しはさほど良くない。材料価格、特に鋼板や電気機器などの高騰が目立っており、今後の売上に影響が出ることを懸念している。また、円安や中国のコロナ政策、ロシアウクライナ紛争による調達難が生じており、代替品への変更や仕入先変更で対応しているが、長納期化による影響は出ている。</p>
北播磨	食 料 品 業 製 造 業	<p>景況感は、さほど良くない。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による巣ごもり需要が落</p>

北播磨 (続き)	食料品業 (続 き)	<p>ち着きを見せ、小麦粉、砂糖などの原材料や電気、ガスなどの燃料費の高騰が顕著となり、円安の影響も相まって商品の値上げ交渉を余儀なくされている。</p> <p>先行き不透明な状況下ではあるが、生産工程の一層の合理化を図るため工場増設や機械設備の自動化に取り組む計画を進めている。</p> <p>雇用面に関しては比較的順調で来春採用予定者も当初の計画通り既に確保済みである。</p>
	金属製品業 製 造	<p>景況感は、さほど良くない。</p> <p>コロナ禍を追い風に拡大したDIYブームに乗って好調であったホームセンターからの受注も減少し、アフターコロナを見据えた取組が喫緊の課題となっている。</p> <p>海外からの調達部材の不足、遅延や高騰など、かなり困難な状況下ではあるが、価格転嫁の交渉や工場設備の増設による生産効率の向上に取り組んでいる。</p> <p>雇用人員の状況は一定の応募はあるものの製造部門、営業部門ともに不足している。</p>
中播磨	宿 泊 業	<p>全体的な景況感が良い。県民割に加え「全国旅行支援」が開始し受注が回復した。稼働率も大幅に上昇(80%超)している。</p> <p>雇用面は不足している。系列ホテルのネットワークで人材をやりくりし、基幹業務の人材は休業補償を活用してキープしてきたが、全国旅行支援を契機に、利用顧客への電話案内等で営業上の負担が大きい。一方、宴会需要は回復に至っていない。食材・エネルギー等、原材料価格の高騰による経営への影響はあるが、現状売上がコスト上昇をカバーしており利益は増加した。価格転嫁は近隣ホテルの動向なども考慮しつつ計画していく。</p>
	印 刷 業	<p>全体的な景況感が良い。売上・利益ともに大幅に増加した。加工・メンテナンスの内製化等、業務改善が進むとともに、設備投資の一括減価償却による新たな設備投資への好循環が生まれている。</p> <p>雇用面では、主力世代の時短・育休など働き方改革を進めるとともに、反復作業にはロボットITを活用するなど、人財を肥大化させない組織を目指している。</p> <p>エネルギー原材料等の高騰に対しては価格交渉を進め約8割程度まで転嫁が進んだ。一方半導体不足により、導入予定の設備機器類の納入が遅延する影響が出ている。</p>
西播磨	は ん 用 機 械 器 具 製 造 業	<p>景況は良くも悪くもない状況であり、今後も目立った変化は無いと推測している。コロナ禍でのSNS等を利用したりモートを取り入れた新しい営業スタイルが堅</p>

西播磨 (続き)		調に進捗しているが、原材料の高騰、物流が滞っており、材料が入ってこず、先行きが不透明な状況が続いている。今年度の人材確保に頭を悩ませている。現段階で来春大卒採用や高校生枠もまだ余裕があることから企業の人材確保は売り手市場で厳しい状況であることがうかがえる。
	各 種 商 品 小 売 業	<p>今期の景況感はさほど良くない状況である。昨年同期比では売上は変化ないが利益は減少している。コロナ前の平常に戻りつつある状況ではあるが、あらゆる商品の高騰により、売上はあるが、利益が落ちている。その中で人件費アップや老朽化した設備の更新、近隣距離内の類似業種店舗の出店への対策等懸念事項は多い。</p> <p>一部閉店した店舗が来年の12月に新装オープンすることが決定した。再建に伴い今後更に設備投資が増加することとなる。</p>
但馬	靴 卸 売 業	<p>景況感はさほど良くない。売上高・収益ともに1、2割の減少。原材料のナイロン素材やアルミ素材は中国等からの輸入が多いため、4月以降円安の影響を受けている。</p> <p>販路拡大の面からは、消費購買意欲の高い台湾の新規顧客獲得を目的として、現地のSNS 利用者を対象にオンライン商談を企画している。</p> <p>働き方改革として、初めて男性社員が育児休暇を取得している。退勤時間を1時間繰り上げて家庭の時間を充足させることを目的にしている。</p>
	宿 泊 業	<p>原材料価格の高騰等により、昨年度と比較すると景況感はさほど良くない。個室で食事ができる環境が、お客様の高評価に繋がっている。自社にしかできないサービス提供を目標に高付加価値補助金を利用し部屋の改築を進めている。県民割は多い時は1日100件の予約を確定した。今後の予想としてインバウンド客利用増を見込んでいる。バスツアー再開で団体客も微増となった。原材料価格の高騰対策として価格転嫁を図っているが、蟹シーズンに入り予想がつかず現在交渉中となっている。</p>
丹波	総 合 工 事 業	<p>昨年度と比べると売上が戻ってきてはいるが、コロナ禍前ほど回復はしていない。また、コロナ禍、為替の影響により建設資材や半導体を含む設備機器の価格高騰が続いており、一部価格転嫁をせざるを得ない状況である。</p> <p>今後の社会情勢の見通しが立たないため、業績予想は不透明である。また、業界全体の話でもあるが、現場管理技術者などといった専門的人材が不足しており、充足が困難である。</p>

丹波 (続き)	プラスチック 製品製造業生産用機	<p>巣ごもり需要が続く家庭用樹脂製品は引き続き売上が好調で、全体的な景況感が良い。</p> <p>売上が伸びている一方で、為替や材料費の高騰により、10月から商品価格を1割程度上げることに踏み切った。生活用品ということもあり、長期的な買い控えには繋がらないと予想している。</p>
淡路	運送業	<p>景況感はさほどよくない。原油の高騰による燃料費の先行きが読めない。雇用については、業界全体で慢性的な運転手不足であり、募集をしても応募がほとんどない状況である。車両の更新については、コロナの影響で部品が調達できないなど、一定に入ってこない状況であり苦慮している。</p> <p>運行状況を把握できるシステムを導入し、運行の効率化を図っているが、原油高騰により経費が上昇し、一部しか価格転嫁ができておらず、厳しい状況が続いている。</p>
	小売業	<p>食品原材料等の高騰による販売価格の上昇で客単価は増加しており、昨年度同期と比べ、売上・利益とも上昇しているが、品質管理に重要な温度を保つための電気代などの経費が収益を圧迫しており、景況感は悪い。</p> <p>観光については、全国旅行支援の影響もあり、回復傾向にあるがコロナ前の8~9割程度である。原油・原材料高に対して、蛍光灯の間引きや、アウトソーシングを活用するなど、業務改善を行い対応している。</p>

令和4年10月 県民局・県民センター調査

Ⅲ. 景況調査

Ⅰ. 景況調査について

○『D.I (ディフュージョン・インデックス)』による分析

D.I. とは、景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示します。右の表の場合、「良い」20%－「悪い」30%＝－10%となり、D.I. 値は－10ポイントと示すことができます。

業況	件数	構成比
良い	10 件	20%
不変	25 件	50%
悪い	15 件	30%
合計	50 件	100%

○引用する調査書と有効回答数について

本レポートの作成にあたり、但陽信用金庫が四半期毎に実施する「景気動向調査」の調査結果を引用しています。

(対象期間内における有効回答数)

	エリア	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
景気動向調査 (但陽信用金庫)	取引先全地域	518 件					
中小企業景況調査 (福崎町商工会)	-	1 件	0 件	2 件	3 件	1 件	0 件

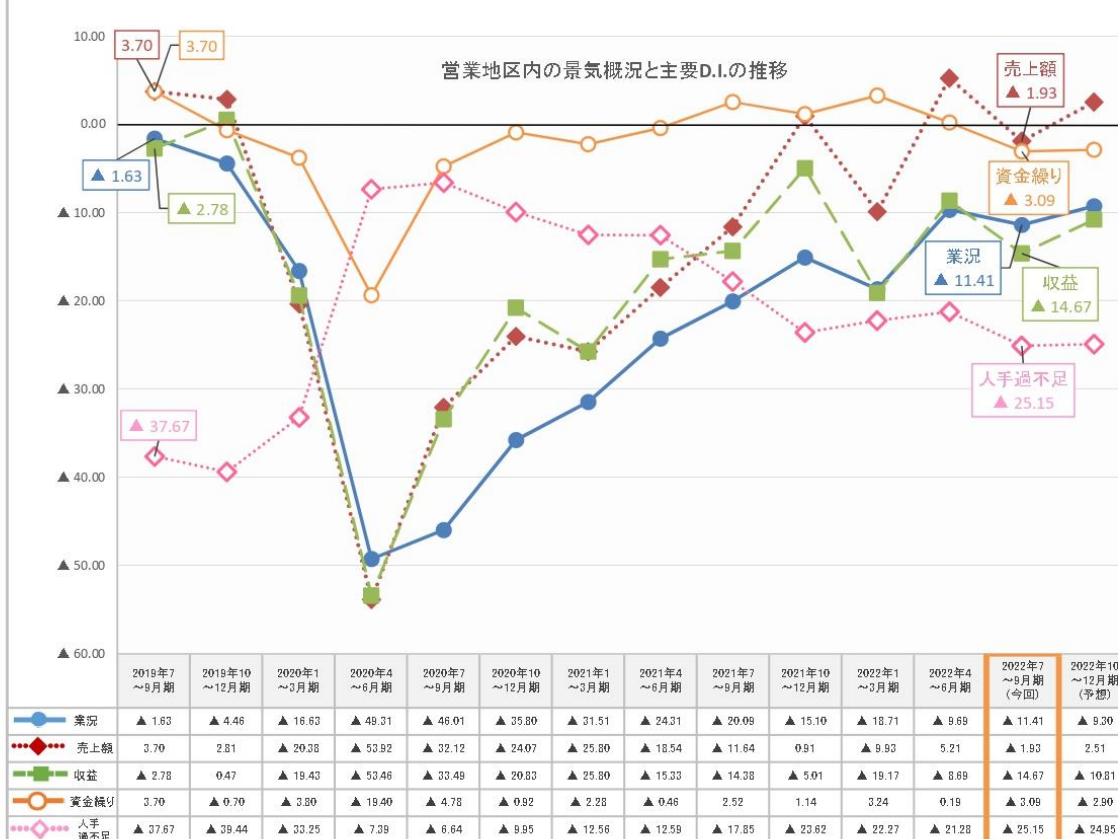
○業種の分類について

本レポートでは、飲食・宿泊業は「サービス業」とあわせて集計しています。

2. 概況（全業種総合）

《但陽信用金庫》

今期の全地域・全業種における業況D.Iは▲11.41と前期から1.72ポイント低下し、売上額D.I・収益D.I・資金繰りD.I・人手過不足D.Iについても軒並み低下しています。前回調査時の今期予想よりも悪化しており、厳しい結果となりました。来期は主要D.Iすべてにおいて改善する予想となっています。ウクライナ情勢の長期化による原材料・燃料価格高騰化や、日米金利差拡大を受けた円安による物価の上昇など、まだまだ先行きは不透明な状況ですが、コロナ感染者数の増加(第7波)が若干の落ち着きを見せ、ウィズコロナによる行動制限のない日常の進展から、景気の回復が期待されるところです。



《福崎町商工会》

(全業種)	2022年 4月～6月期	2022年 7月～9月期	2022年 10月～12月期予想
業況	▲14.29	▲14.29	0.00
売上額	▲42.86	▲28.57	▲42.86
収益	▲14.29	▲14.29	▲14.29
売上単価	14.29	14.29	42.86
仕入単価	▲57.14	▲57.14	▲57.14
資金繰り	0.00	0.00	0.00
従業員	▲28.57	0.00	0.00
外部人材	0.00	0.00	0.00

[2022年7～9月期]：横ばいの依然厳しい状況

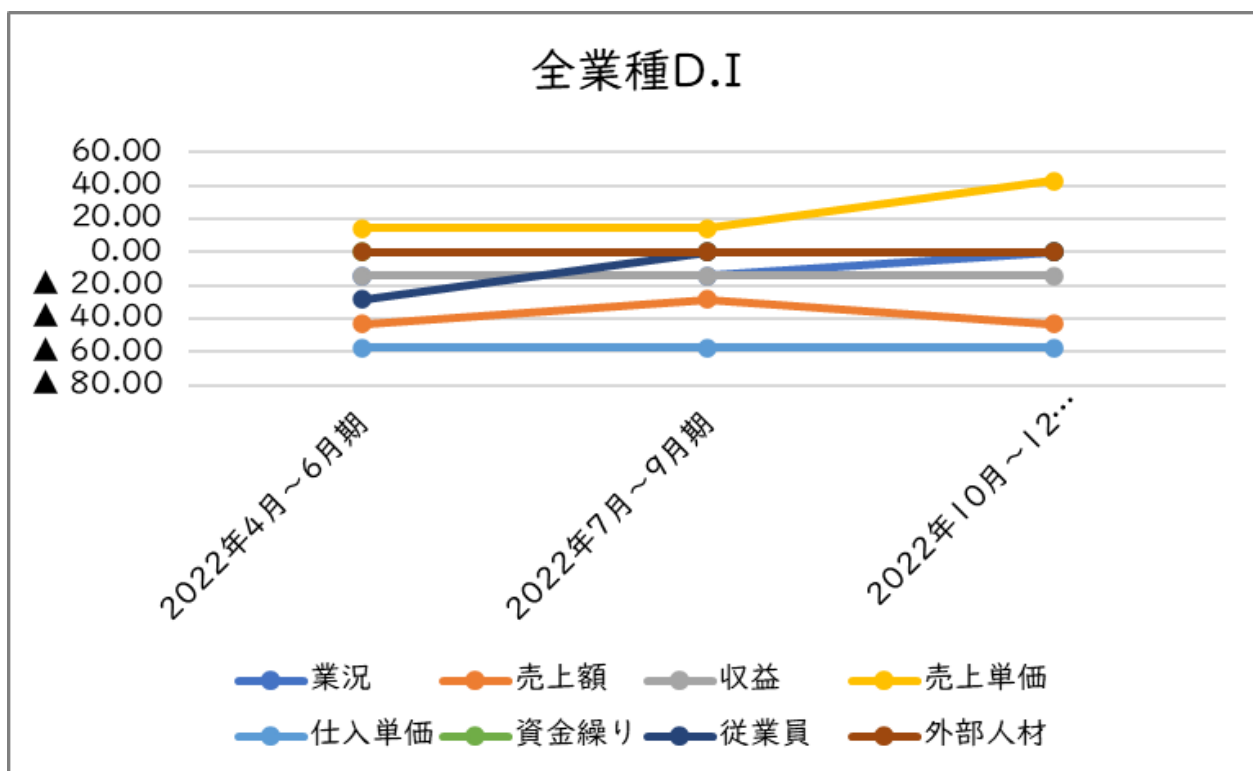
当期の業況D.Iは▲14.29ポイントで、前期から横ばい状態が続いています。

また、売上額と従業員に関するD.Iが上昇したが、マイナスおよび0ポイントで依然マイナスの厳しい状況です。

[2022年10～12月期]：上昇傾向にあるが依然厳しい状況

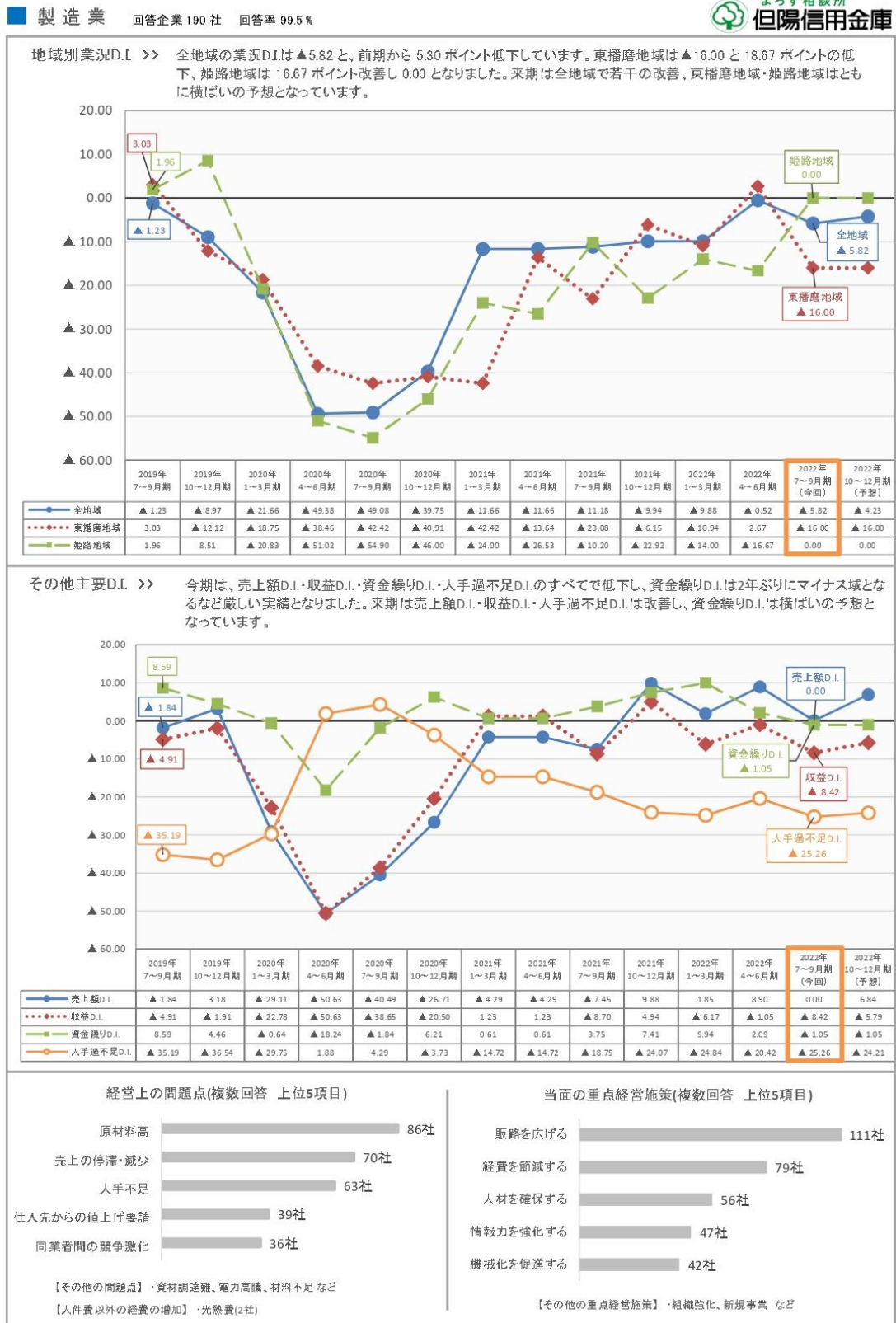
来期の予想業況D.Iは0ポイントで上昇ですが、依然厳しい予想です。

売上単価に関するD.Iが上昇、売上額は減少し、その他はほぼ横ばいの停滞予想です。



3. 業種ごとの集計《但陽信用金庫》

(1) 製造業

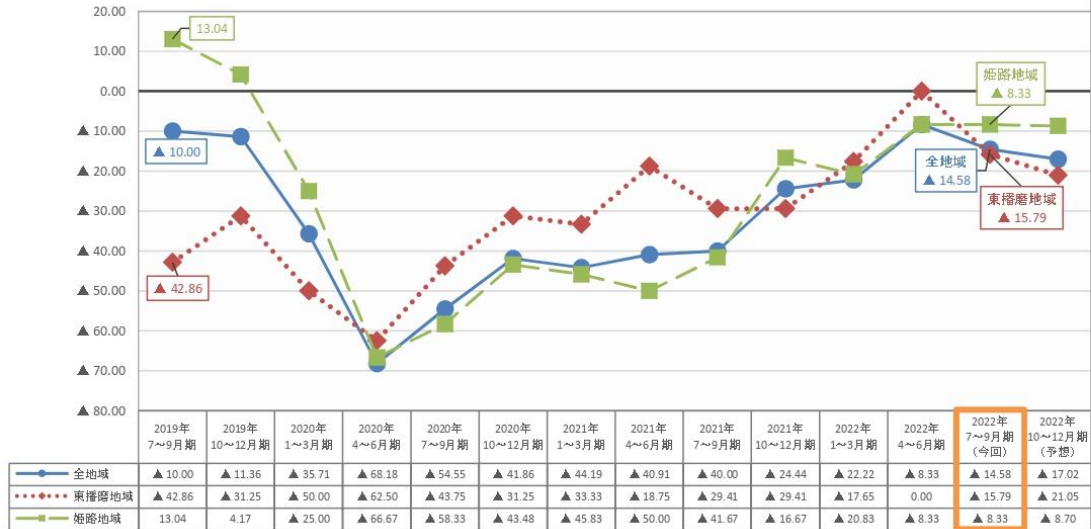


(2) 卸売業

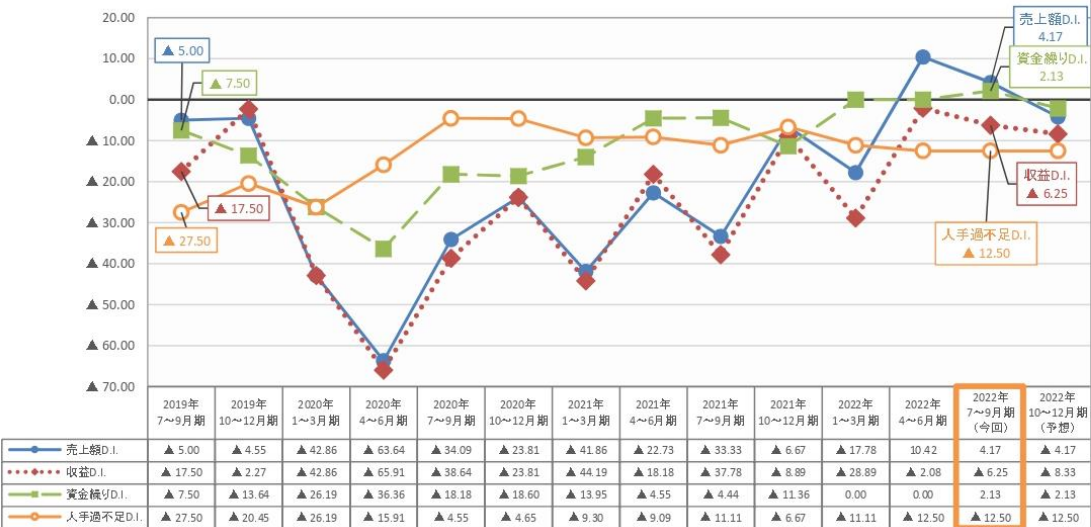
卸売業 回答企業 48社 回答率 100.0%



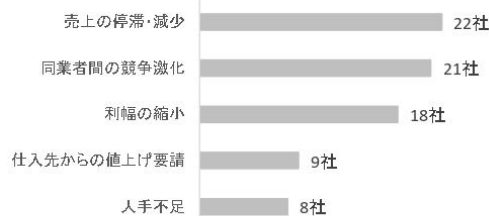
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は▲14.58と、前期から6.25ポイント低下し、東播磨地域は15.79ポイント低下の▲15.79、姫路地域は横ばいの▲8.33の実績になりました。来期は全地域・地域別ともに低下する予想となっています。



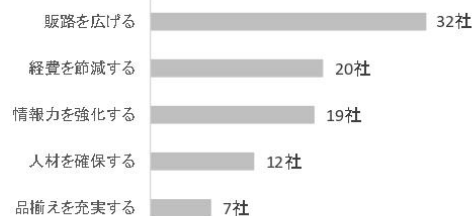
その他主要D.I. >> 資金繰りD.I.は前期から改善し、人手過不足D.I.は横ばい、売上額D.I.・収益D.I.は低下しています。来期は人手過不足D.I.は横ばい、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.が低下する厳しい予想となっています。



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)



当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

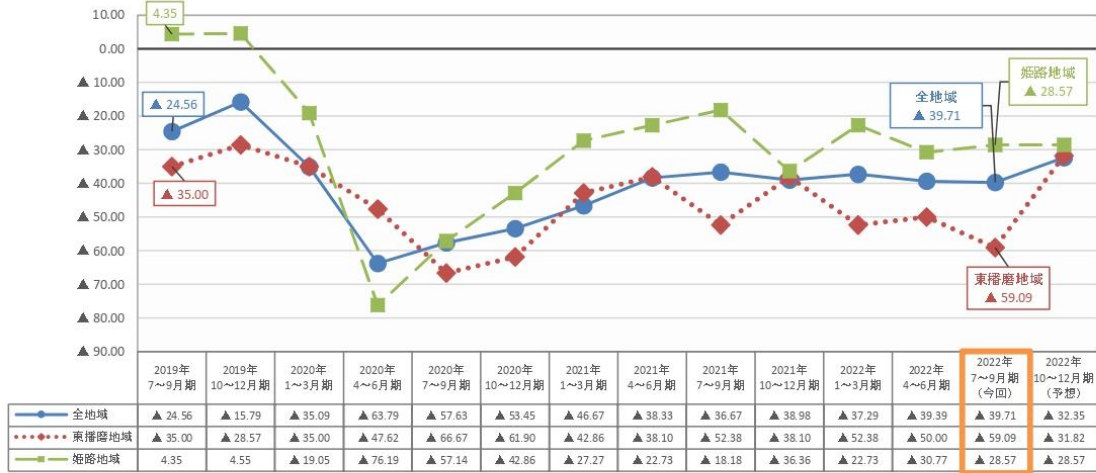


(3) 小売業

小売業 回答企業 68社 回答率 100.0%



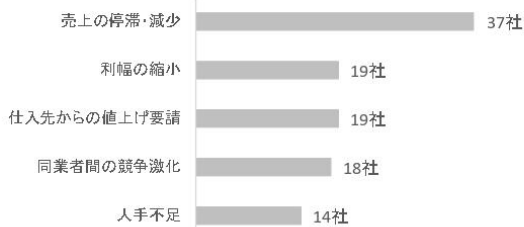
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は▲39.71と、前期から0.32ポイント低下しています。東播磨地域は▲59.09と9.09ポイント低下、姫路地域は▲28.57と2.20ポイント改善しています。来期は全地域・東播磨地域で改善、姫路地域では横ばいの予想となっています。



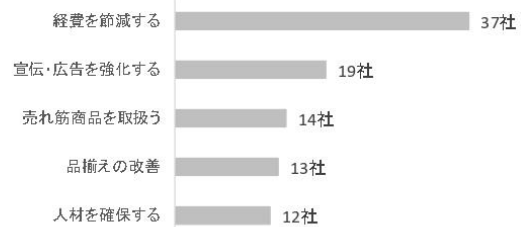
その他主要D.I. >> 資金繰りD.I.は前期から改善し、売上額D.I.・収益D.I.・人手過不足D.I.は低下しています。来期は売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.のすべてで改善する予想となっています。



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)



当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)



調査員コメント

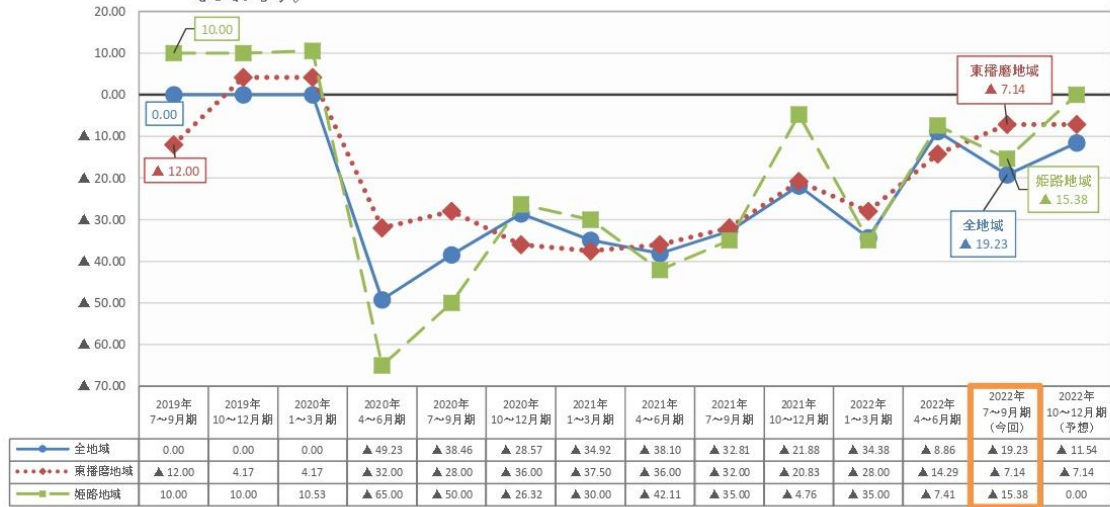
・大型店進出やコロナ禍により、毎月赤字の状況。打開策がなく、苦しい業況(日用品・医薬品販売業)

(4) サービス業

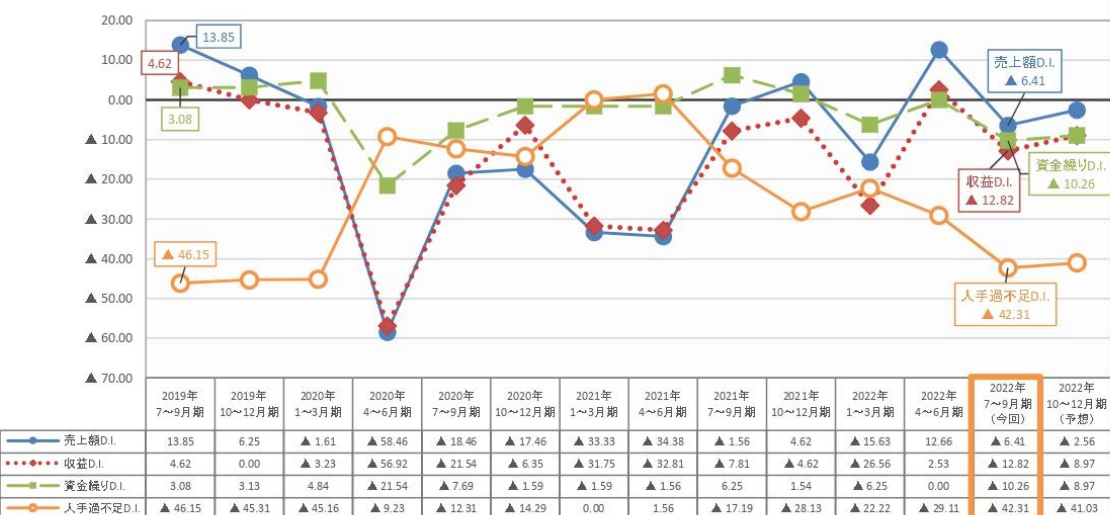
■ サービス業 回答企業 78社 回答率 97.5%



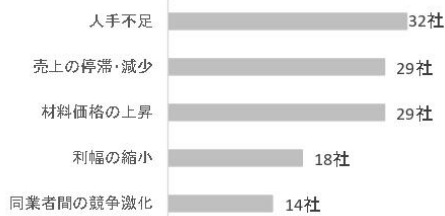
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は▲19.23と、前期から10.37ポイント低下しています。東播磨地域は▲7.14と7.15ポイントの改善、姫路地域は▲15.38と7.97ポイント低下しています。来期は全地域・姫路地域で改善、東播磨地域は横ばいの予想となっています。



その他主要D.I. >> 今期は、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.すべてが前期から低下しています。来期は今期実績の反動から、売上額D.I.・収益D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.のすべてで改善の予想となっています。

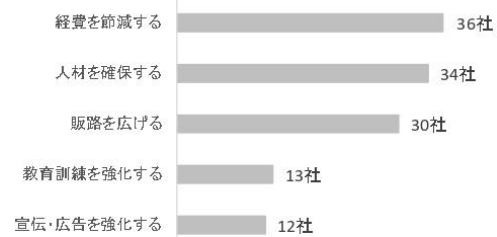


経営上の問題点(複数回答 上位5項目)



【その他の問題点】・納者の遅延、在庫 など

当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

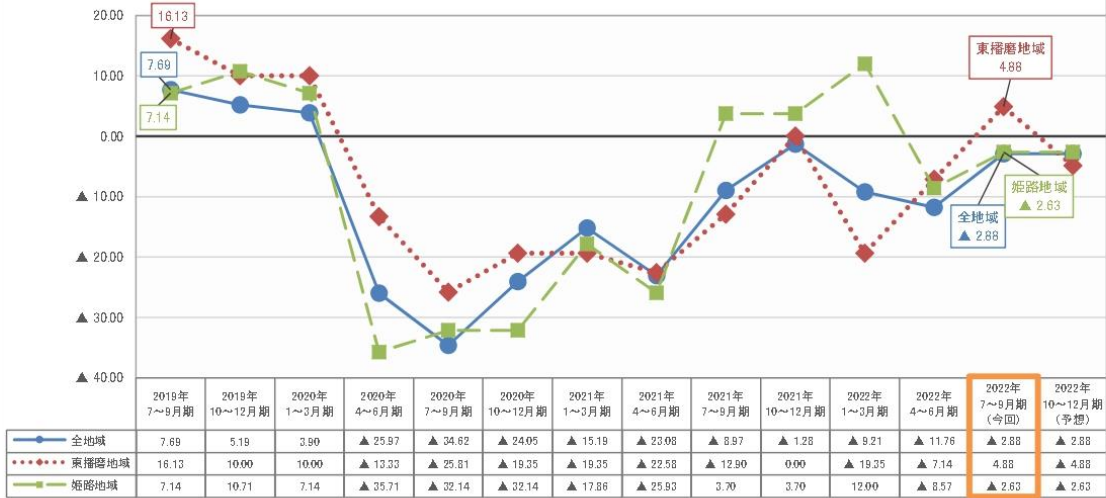


(5) 建設業

建設業 回答企業 104社 回答率 99.0%



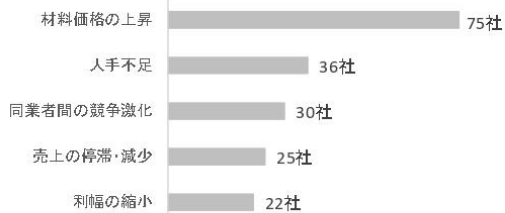
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は▲2.88と前期から8.88ポイントの改善、東播磨地域は4.88と12.02ポイントの改善、姫路地域が▲2.63と5.94ポイントの改善となり、全地域・地域別で改善となりました。末期は全地域・姫路地域で横ばい、東播磨地域が低下する予想となっています。



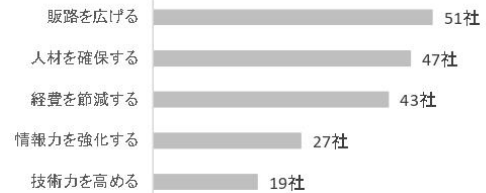
その他主要D.I. >> 売上額D.I.・人手過不足D.I.は前期より改善し、収益D.I.・資金繰りD.I.が低下しています。末期は収益D.I.が改善、資金繰りD.I.は横ばい、売上額D.I.・人手過不足D.I.が低下の予想となっています。



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)



当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)



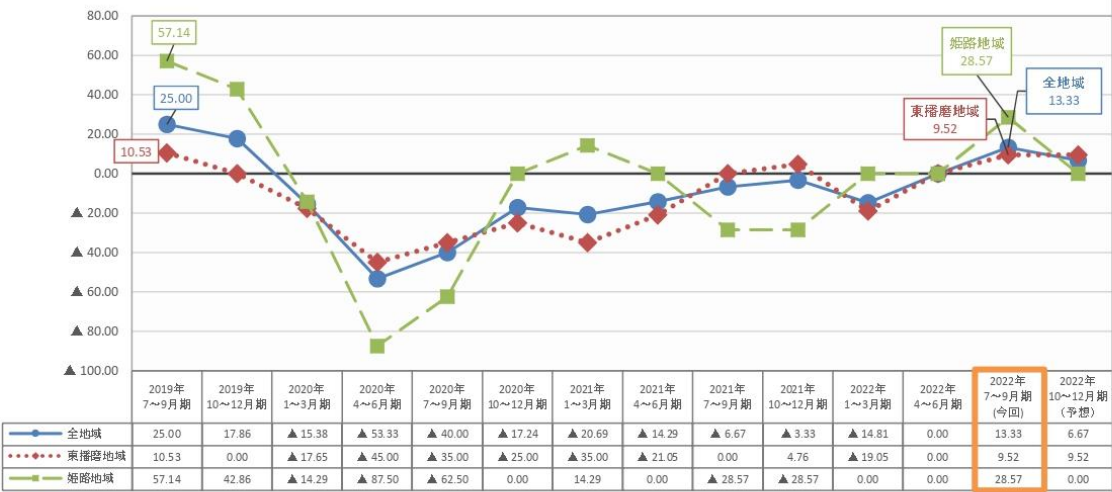
【その他の重点経営施策】・業務効率化、下請の確保など

(6) 不動産業

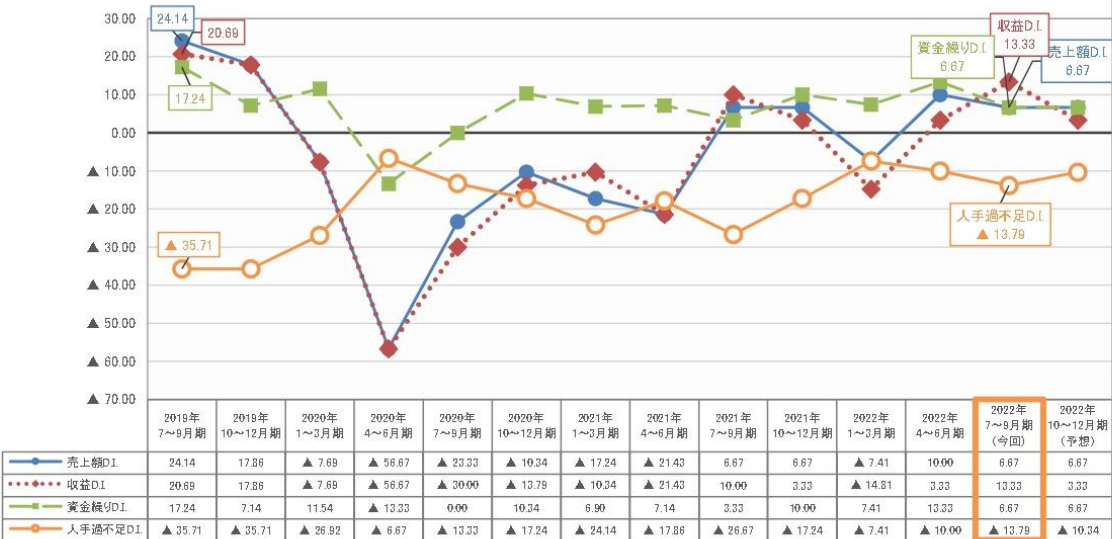
■ 不動産業 回答企業 30社 回答率 100.0%



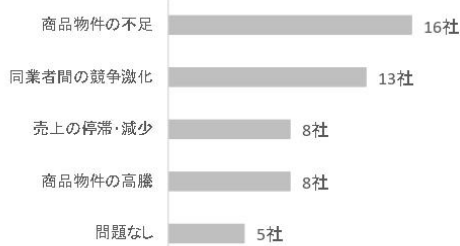
地域別業況D.I. >> 全地域の業況D.I.は13.33ポイントの改善、東播磨地域は9.52ポイントの改善、姫路地域は28.57ポイントの改善となり、全地域・地域別での改善となりました。来期は全地域・姫路地域で低下、東播磨地域は横ばいの予想となっています。



その他主要D.I. >> 収益D.I.が13.33と10.00ポイント改善したものの、売上額D.I.・資金繰りD.I.・人手過不足D.I.は前期より低下しています。来期は人手過不足D.I.が改善、売上額D.I.・資金繰りD.I.が横ばい、収益D.I.は低下の予想となっています。



経営上の問題点(複数回答 上位5項目)



当面の重点経営施策(複数回答 上位5項目)

